

道

二年

画数 12
筆順

ドウ・トウ
みち

成り立ち

道 → 道 → 道 → 道

「あたま(かしら)」をあらわした「首」と「みち」の
「みち」をあらわした「道」とをくみあわせて、「申しんと
なる「みち」をあらわした字です。

「みち」のことを「道路」といいますが、「路」は、
「中心となる「道」と「道」とを「連絡するみち」をあ
らわした字です。「道」は「中心となる大きなみち」の
ことで、「路」は「道と道をつなぐ小さなみち」のこ
とです。それで、「みち」のことを「道路」というので
す。

また、人がしゃかいせいかつをしていくのに、ぜひま
もらなければならぬ「まきまり」を「道」ということも
あります。

読

二年

画数 14
筆順

ヨク・トク
よむ

成り立ち

読 → 讀 → 讀 → 讀

「言葉」もしくは「言う」という「言」と、「そ
とに出す」の「売」とをくみあわせてつくった字で、
「言葉をそとに出して言う」こと、「よむ」ことをあらわ
したものです。読む人は「言葉の売り手」で、それをさ
く人は「言葉の買い手」ですね。

「讀」の「賣」は「賣買」の「賣」と同じ形をして
いるが、古い字形は「囧」と「囧」というように異なっ
ていて、「讀」の本字で「長く続く」意味をもつ。した
がって、「讀」は「言葉を長く続けて言う」という意味
の字であるが、子供には理解しがたいと思う。

使い方

- ▽道路工事(道がとおれませんでした。それで、わた
しは、まわり道をしました。)
- ▽国道(二十ごうせんが、じこで、不通になっています。)
- ▽学校へいく道のとちゆうに、うめがさいていました。
白いうめで、とてもいいにおいでした。この道には、
いろいろな木や花があるので、この道があるくのは、
とてもすきです。)
- ▽人びとがまもらなければ、うまくせいかつしていけな
いきまりを「道徳」と、いいます。「道徳」は、人がす
すんでいかなければならない、正しい道です。
- ▽横断歩道では左右をよく見て、わたりましょう。

熟語例

- ▽道路(みち)
- ▽国道(国がつくった道路)
- ▽歩道(歩く人のための道路)
- ▽車道(車をはしる道路)

使い方

- ▽読書(読むこと)は、とてもたいせつであるばかりか、と
てもたのしいことです。
- ▽むずかしい字があつて、読みかたがわからないので、
おかあさんにききました。したら、「いっしょに、し
らべてみよう」と、おかあさんがいいました。そこで、
いっしょに辞書をひきました。辞書というのは、わか
らない言葉をしらべるための本です。とてもべんりで、
おもしろい本です。
- ▽わたしは本を読むのが大好きです。いろいろな本を読
むと、しらないことがいっぱい出てきて、おもしろさ
にむちゆうになつてしまひます。
- ▽いい本を熟読することが、たいせつなことです。
- ▽読書(本を読むこと)。
- ▽読者(本など、文字がかいてあるものを読む人のこと。
読み手)。
- ▽熟読(よく読んで、かいてあることのいみをじゆうぶ
んにりかひすること)。